

## 「紙上座談会」

### 道南におけるスギの樹種特性

——函館林指，鈴木 Ag の便りに応えて——

井 谷 和 善

K 「函館地区林業指導事務所の鈴木さんから本誌あてに，指導員としての悩みを綴った便りが寄せられました。

今回は，その中から，道南地域の林業にとって重要なスギの樹種特性について，私が司会をし，話を進めたいと思います。

初めに，道内のスギ資源はどのくらい有るのですか」

T 「渡島，桧山支庁管内を主体に，面積で 31 千 ha，蓄積で 320 万 m<sup>3</sup>あり，民有林が 90% 近くを占めています。

小面積ですと札幌市，月形町，羽幌町，東利尻町などにもあります」

K 「道南に入っている品種について話してください」

S 「スギは一種一属といわれますが，長い歴史の中で，数百に及ぶ品種に分けられます。これを，大きくは表日本系スギと，裏日本系スギに分け，北海道には寒さや雪に強いとされる裏日本系のアキタスギが導入されています」

K 「アキタスギの自然分布はどうなっていますか」

S 「北は青森県鱒ヶ沢，南は宮城県 <sup>オニコウベ</sup> 鬼首 の範囲でしょう」

T 「そうですね。アキタスギと一口に言っても，9 品種ほどあり，それは地名からきています。

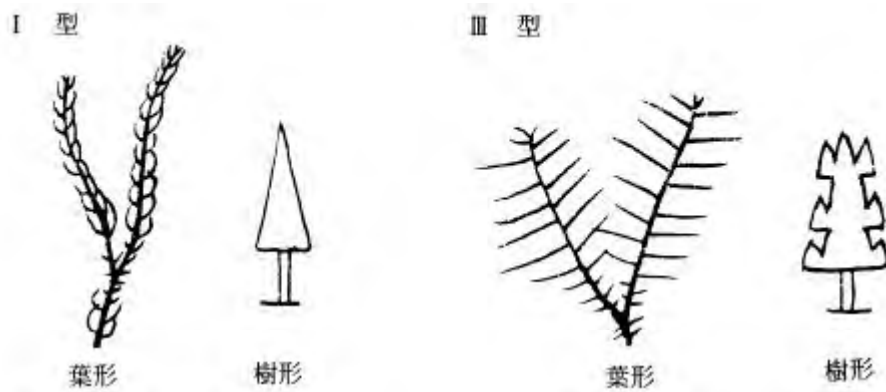
北海道には，アジガサワ，ニフナ，トウドウなどの品種がよいとされていますが，近年は，人工林からの種子採種が多く，正確にどの品種の苗木が入ってきているかは不明です」

K 「表と裏の区分，あるいは寒さに強いもの，弱いものを見分けるには，どのような方法がありますか」

S 「図を見てください。主として葉の型で I 型～ 型に区分し，I 型が裏日本系スギで耐寒性に富むといわれます。I 型の葉は柔らかく，枝に沿うように生え，手で触れても痛くないのに対し， 型は堅くて枝から横に開くように生え，触れると針先が刺さり痛いです」

K 「冬に函館の方に旅行すると，よくスギが赤く変色しているのを見ますが，枯れることはないのですか」

S 「それはスギ体内の水分，糖，有機酸と関係があるといわれ，枯れることはないと思います。それより，どのように変色するか注意して見てほしいですね。もし赤っぽく変色すれば，



参考模式図

その樹は耐寒性があり，黄変色ですと耐乾性があるといわれます」

T 「付け加えて，夏の色にも黄緑型と濃緑型があり，前者は乾地，後者は湿潤型と見てよいでしょう」

K 「スギの造林に当たっては，どんなことに注意したらよいでしょうか」

T 「スギは陽樹ですが，若齢時は相当な庇陰地にも耐えます。土壌的には湿潤地を好みますが，停滞水のあるところと風衝地は避けなければなりません。また標高は 200 m ぐらいが限界でしょう」

K 「造林木の雪害，野鼠害，また虫害などはどうでしょうか」

S 「雪の量にもよりますが，幹折れは少ないようです。曲りは相当見受けられますが，曲り部分から上はスギらしく通直に伸びます。野鼠にはあまり強くなく，カラマツと同程度と考えてよいでしょう。

虫では，何といってもスギノアカネトラカミキリが問題で，この虫害については道南支場で研究を進めています。幸いなことに松前町，福島町の方に被害が見られますが，それより北の方では被害は無いようです。

K 「アキタスギは樹幹の形の違いによっていくつかのタイプに分けられるといわれていますが」

T 「樹皮の形によって分けています。私の観察で，多く見られる順に言いますと，アミハダは樹皮が網目状のもの。アカハダは幼時の皮が剥離しやすく，そのために赤い地肌を出します。ハナレハダは縞状の樹皮で，古くなると根元から広く長く斜めに剥皮しやすくなります。マツハダは名のとおり，マツ類の肌似ています。トヨハダは皮が厚く，縦に長く槌状の裂け目があります。最後にシロハダですが，アミハダを更に細くした形です」

K 「生長はタイプによって異なりますか」

T 「違うようです。生長の早いものから述べますと，アカハダ，ハナレハダ，トヨハダ，アミハダ，マツハダ，シロハダでしょうか。

しかし，これは私が道南地方で調査したもので，秋田県等では少し異なるようです」

K 「生長の早いものが，本道に適するのですか」

T 「そうとも限りません。生長の良いものは寿命が短いようですし、耐寒性はむしろ生長の遅いものにあるようです」

K 「次に、心材の変色についてですが」

S 「スギの心材は、淡赤色の美しいものですが、なぜか黒心材も多く見られます。この材は強度的には普通なのですが、今の農林規格では変色材として等級が落ちるため大きな問題です」

K 「これを防ぐ方法はないでしょうか」

S 「現在、どうして黒心材ができるのかは解明されていません。遺伝説、立地説、あるいは何かの被害説など、いろいろありますが、決め手になるものは無いようです」

T 幸いなことに黒心材が出現する率は少なく、私が調査したところでは0～15%、平均で3%程度でした。

樹の外観から黒心材が見分けられればよいのですが」

K 「樹種特性ということで、いろいろと話をして戴きました。

スギはヒノキと並んで、日本の代表的な針葉樹であり、良質材の生産、地域の組織化、造林から伐採に至るまでの施業技術、そして、これをふまえて森林所有者と地域の経営改善が図られるよう、地域のアドバイザーであるAgさんの果す役割は大きいので、一層のご努力を期待します。

道南スギは資源量からみて、本州の大きな県に匹敵する訳で、一日も早く産地化が図られるよう祈念して終りたいと思います。Tさん、Sさん、どうもありがとうございました」

(主任林業専門技術員)